

図 2 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992年1月1日～2007年3月31日)
 ・2005年7月以降、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。
 ・火山性微動は2003年2月から時々観測され、2006年10月以降、やや多い状態で推移しています。

*1982年1月1日～1999年9月12日及び2005年12月15～28日までは京都大学のデータを使用しました。
 *2002年12月22日～2003年1月11日まで地震計1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日までは地震計1の機器障害のため、地震計3で回数を計数しました。

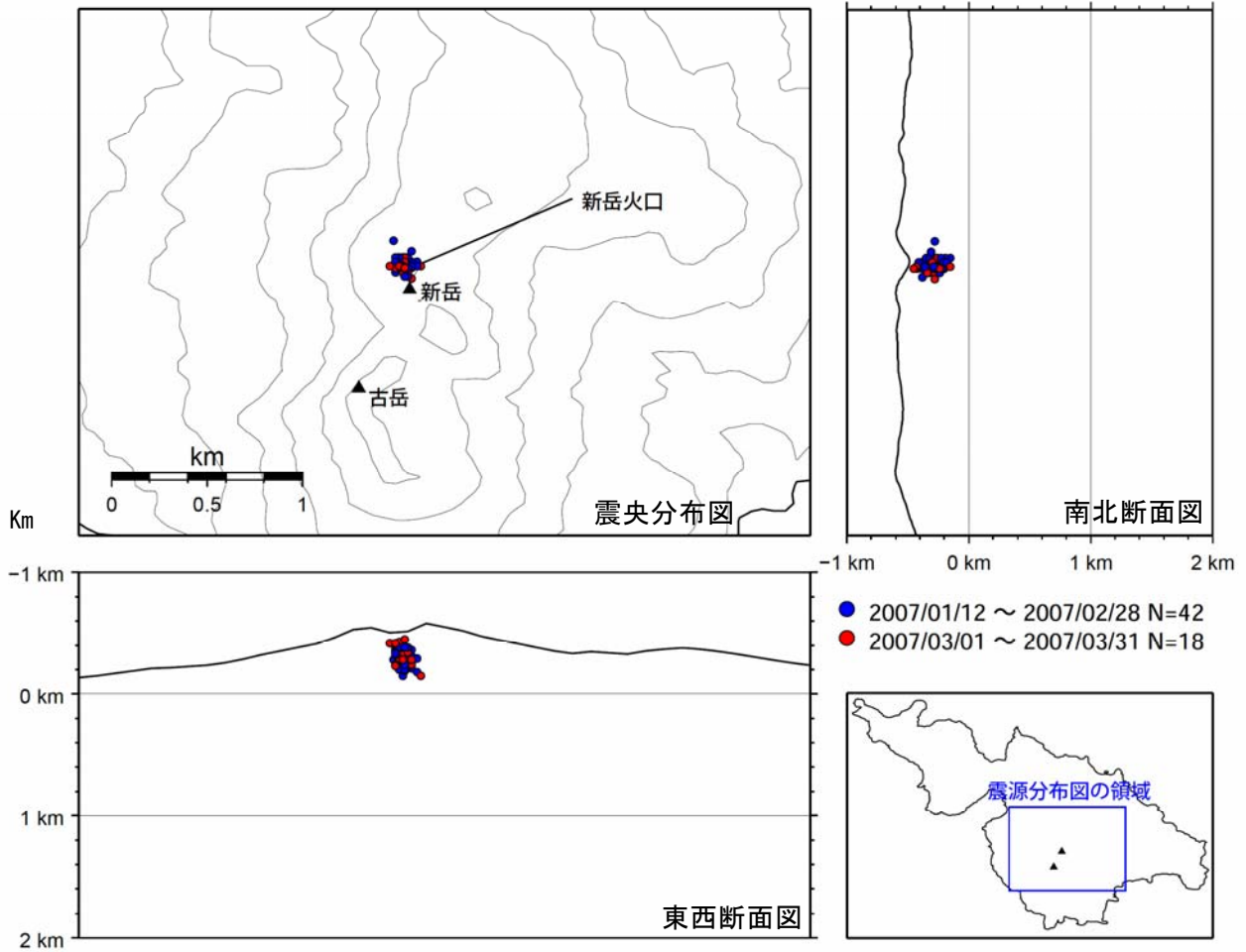


図 3※ 口永良部島 震源分布図(2007 年 1 月 12 日～3 月 31 日)

・火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

* 1 月 12 日から京都大学のデータを使用開始しました。

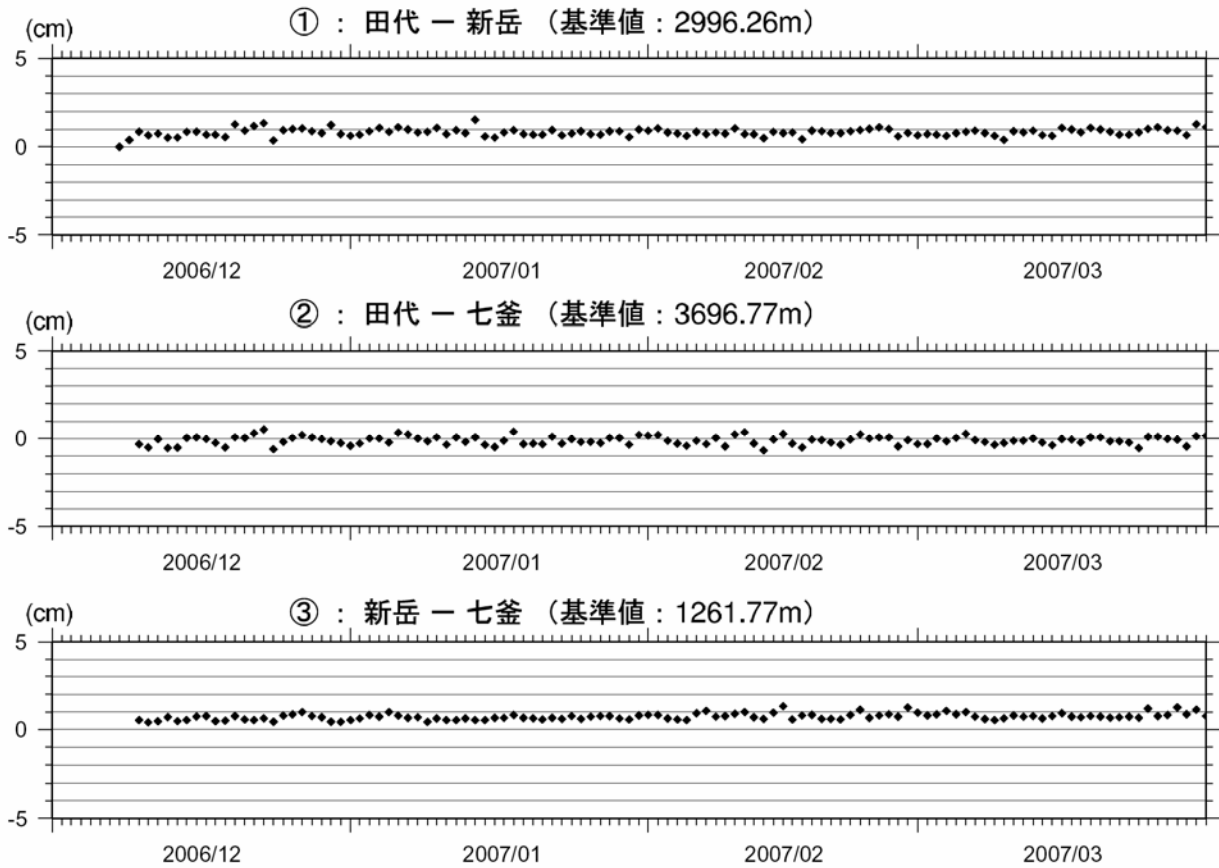


図4 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化(2006年12月8日~2007年3月31日)
火山活動に起因するような変化はありませんでした。

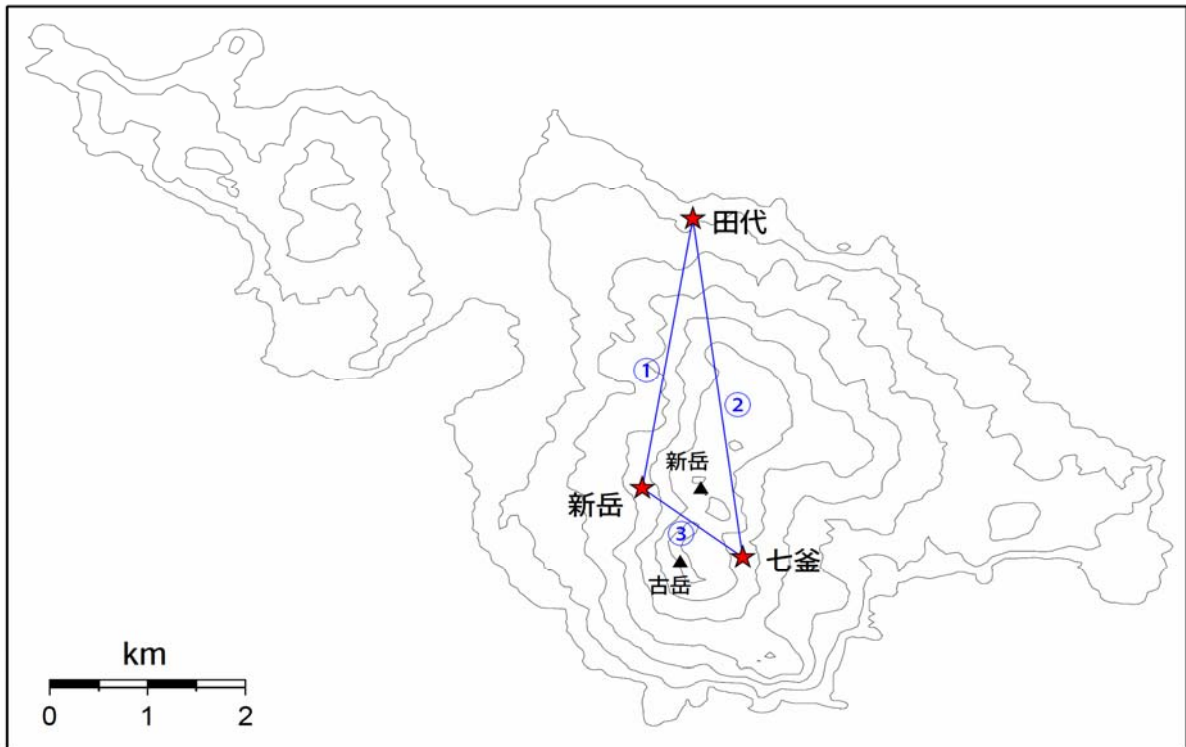


図5 口永良部島 GPS 連続観測点と基線番号